



2.2

5歳未満の子供の発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対応を行う。

辻 要

歯学部

口腔外科学第一講座

自家歯牙移植の予後因子についての研究

歯の生理的機能の回復を目指して、歯の周囲組織と親和性・適合性を持つ治療法である「歯科再生治療」に関する研究を行っています。現在行われている歯科再生治療には、自身の歯を欠損部へ移植する歯牙（しが）移植治療や、幼弱な発生段階の自家歯胚を利用する歯胚移植治療があります。お口の中で、噛み合わせに機能していない歯を移植する治療法の「自家歯牙移植」は歯の喪失に対する有用な治療法の一つと考えられています。



保存不可能な左下の犬臼歯



移植歯として利用する左下の親知らず

message

先進国と発展途上国の健康と福祉に関する意識の統一のため、個人レベルで向き合うべきであると思いました。まずは一市民として身近でできることを実践して、大学でも歯学という点で研究を通じて貢献していきべきだと思います。